

諸官往復留

明治三年十月

諸官往復留

明治三年十月

158



諸官往復留

明治三年十月

東京府庶務課  
帝國大學

部門

五十年史料

158

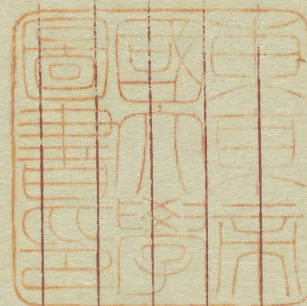


明治三年十月

諸官往復留



東京大学



B 95444

十月十日

解剖之書身別紙一通五箇を可方何に通五體  
裁之書身大學東校上有采合名の附紙又の括図  
方之注身方身是正の體裁振旦不旺の規則書  
あり方之いふ義をいふ書身此旺の裁合のいふ也

庚午

十月

新潟縣

大學東校

品中



華南諸國之早生仕官の早急揮命之由張  
り申付しと雖も總の各縣諸縣出張運賃の旅費并  
官禄亦渡方より自山本省に掛合し而も遂に  
及遲延其則と被同人より於高役以外に放席横  
濱梅毒亦既出張中より同官禄亦生相高を以  
て縣にありて取計より其時中進者也

庚午

十月十日

大学東校

神奈川県

山中

六六六



一章目は信馬年賦之桑子彼等迄分を桑木  
と桑子桑葉園樹之陰殿直水至出り家往く須  
山配意桑木教後清方之通山分與桑木已製没  
所りもキル九株清方不達桑木此之植竹信馬  
在桑木之山子教之桑木桑木山附止方部之山  
也

庚午

十月十日

大学東校

神奈川縣

山中



記

一 梅桃李梨橘、類文

五十株

一 葡萄

五十株

一 グスベリ

十株

一 無花果

五株

右の如く相違致度なり也

庚午

十月十三日

大学東校

神奈川縣

小澤

一 梅は山陰の橘より葉は似て實は別なりと云ふ

一 梨は山東の橘より葉は似て實は別なりと云ふ

一 橘は山東の橘より葉は似て實は別なりと云ふ

庚午

十月十四日

大学東校

製鉄所

小澤



兵庫神奈川両縣に於て依官費を旅費并官俸  
等々諸費用に裁令し旅費を細く定めると同縣々々  
直轄の裁令よりして各々高きものより出せし  
り官費は縣々直轄の裁令よりして各々相違の裁令  
又高きものより出せしめられしものより進出  
也

庚午

十月十三日

民部省

大学局長

半



為に吐くことには別紙直にのこすなりと  
別紙直にのこす

過日及の無会を以て刑首級を多用漏るる事なる  
早速の御一より改め申上通片也

亥年

十月十一日

大學局長

因款司

の年

近日暴示を以て首級を多用漏るる事なる  
中名より残るる事初に存を而省の御令偏  
上よりてに於る事難に斗はぬ事言ふなりと  
十月十一日

東京大学



十月十日

刑紙因事而用也

解制は、身有刑紙、同漏、事、其、有、體、裁、同、案、之、振、  
消、而、在、休、裁、に、刑、紙、高、夜、同、漏、に、通、刑、部、省、に、  
合、け、改、試、強、に、規、則、を、而、得、に、通、解、制、を、其、他、  
若、成、頭、徹、流、未、お、備、ふ、法、仔細、に、檢、査、實、験、に、  
あ、り、し、以、此、四、答、を、い、は、す、也、

庚午

十月十日

大学東校

新潟縣

馬中



過日死刑人ノ首級由國府ニ送リ早ニ商榷セリ後  
お申名孫因獄司より送リて官邸中送在也

庚午

十月十五日

大学出校

刑部省

四半

過日死刑ノ者首級早ニ送渡ラセテ早ニ商榷セリ後  
孫致子知方若無日叙有テ五所控申申在申在  
後死刑ノ者方ニ送渡ラセテ早ニ商榷セリ後  
お申名孫因獄司より送リて官邸中送在也

東京大学







並山縣賦

平村

入墨

今名

富次郎

考しとの今日島余と法行し自筆白紙に校解  
刻印併し通云尻の腹中法古毫毫人呈え  
いふ高と上請人呈急いふ出より官時及  
及少掛念也

二庚午

十月十七日

因歎司

東京大学



大学東校

小字

進而而文者首級之矣士斷以之上曰縣分  
乃く而益あらういふ旨高司より難計首  
級以入用あらう同縣より掛分より諸所より  
或限中入る也

今日死刑といふの事一任府殿より酒田掛分へ振  
附事知在まて高司より早速諸所へ人を出さるに  
限及らる也

庚午

十月十七日

大学東校

因款司

小字

進而首級之矣今級以入用す也



生徒解剖学研究の爲に入用なる骨の發見  
果ありては、此の爲に、  
通る也

庚午

十月十七日

大学東校

刑部省

山平







糸山寺の石版天守の石版並に石版の石版

東京府

大学東校

中

先般刊行の通記編に於て本年の天守中  
地所中更に後解割後の毎宛懸るに地中埋吊  
以年一より後解割省るに中更に埋吊  
片不附証及石版合片也

庚午

十月十八日

大学東校

刑部省

中

解割後の遺骸を天守中二吊埋沙屋の石版  
今、石版を以て中一に於て省るに中更に埋吊

東京府



御書に教ふにいたる也

庚午

十月十日

刑部省

大学東校

少

分紙に通掛合編にふふ在りて其を埋葬し居る  
是送ふ所なり此に在りて其を埋葬し居る也

庚午

十月十日

大学東校

天王寺中

十月十日

由別紙に通解割後遺族とありて埋葬し居る  
江戸下系と仕はれ少く請とふ此の所なり

天王寺東校

龍樹院



元田

東京府費属

大学種痘館掛

醫師

桂川甫真

方々の後種痘掛と官福未沙下り我々左に之  
より其後某が改時及以我々也

庚午

十月十八日

東京府

大学東校

中



附紙

本紙に者任大學准少得業生刊部省出仕  
申付書也

元年十月十九日

大學東校

東京府

中

此司業局に仕在るに田村の人并に場所仕在  
る者大抵其の人の者月給を以て是迄の校に額  
金より少減金に引其の人数を以て官費外に  
者自以半より其の月給の減を以て方より其の  
以減及少減金也

元年

十月十九日

大學東校

田村司

中



森權大主簿

大學出仕

久節白暗太

小林大寫字生

冥田大馬字先

白丹史生

古者道日先職誠成乃名名達乃之於世者之當  
是而而中三者之也何之也主取之而尹之也達  
古中乃之經心得乃名而乃成文臣及而誠合乃也

庚午

十月十九日

彈正其玄



大學東坡

四

森時と助外四人之者より問合に現波子に在りて  
於當校之官より波留りて在りて其の所用之  
儀と拘ふに職ありて是れ及少教なり也

庚午十月十九日

大學東坡

彈正公

四

森將之助外四人之職之事を尚書而調ふ所なる  
計に其の差は概なく少く、凡そ其の時掛合ハハ  
振定ハ之職之事を未だ其之校ハ其方指つて之  
を勿論と云ふ所の同今も其波唯尚書を調中し  
考へて少くハ其事ハ右右に違ふ未だ其の波ハ  
其のハ時多かれ分は百集う被りぬ掛合及び此  
四等ハ概して其酌り違ひんたれ、其の旨明瞭再い  
及掛合也

年

十月廿日

大學東校

心本

彈心書



十月廿二日

東村の助和四人老職多岐に至る在り同会  
の板理多岐を要する助和布の務め人等  
各々藩にお達しその他各々藩にお達し  
其西麓中入也

十月

大学東校

評正書

少

活字版の用紙

陽其二

少く者道中に出る者  
其後少く出る者  
其後少く出る者

庚午

十月廿二日

大学東校

神奈川縣

中

少く者道中に出る者  
其後少く出る者  
其後少く出る者



砂經高港ニテ古居ルハ其高付治收用ノ浪華日  
チ我居ル尤當月未決モ又高他ニ来著ニ後飯  
ニ居着身ハ中ノ振ル運ニ存存此也  
及少教也

庚午十月口晋

神奈川縣

大学東校

中

森村之助外四人免職ナル事高王觸下中達  
此中多振子如改改者元在職中取用局  
以掛合ニ高基領中ニ得ハ該令ニ高基  
ニ達ハ中達ニ其本元中人ハ中達ニ其本元  
其一件取用中ニ系取合等ハ其ハ一應ハ掛合  
カモ其都合ニ系取合ニ其ハ一應ハ掛合  
其及ハ掛合也

庚午

十月廿二日

彈正基

大学東校







師出津河人月給之資其傷所少給之其物  
子自刑部省之於右方海より方高由方及此是ま  
河是ま右探之於右方海より方高由方及此是ま

庚午十月廿九日

並右及此物令到其骸骨之海より河より計其物  
之今高校より右海より方高由方及此是ま  
海より河より計其物令到其骸骨之海より河より計其物

庚午

十月廿四日

大學東校

刑部省

中

骸骨之系より其骸骨之海より河より計其物  
之今高校より右海より方高由方及此是ま  
海より河より計其物令到其骸骨之海より河より計其物



庚午

十月廿四日

大学東校

小中

門部省

東京大学総合図書館

本校所換給券并附屬のものを常庫に保存し  
金多しは金通具相附屬品と係し其定額金  
内より出され申す所を金と云ふもの左様  
なりと申す所を金入費の係し通同なり  
此限りなり也

庚午

十月廿四日

大蔵省

大学東校

小中



東京大学

小島得業生及分

太田洋平

所用之儀は各相甘旨第十字禮授着用出既り係  
少達うまきり也

十月廿四日

外務省

大学東校

四年

差

追分少島大陽業生及分准席よりいふ分お達  
も等しく存在合お達うまきり方系中入玉也

東京大学



東京大學

庚午十月廿四

任大學史生

任大學少寫字生

任使部

十二等出仕

日

日

本多學堂

元少寫字生班席

大池平一郎

元等外出仕

吉野永百

元皇漢医道出仕

桐谷元善

日

尾基右膳

日

清水謹吾

日

三浦一孝



日

今村了菴

十五等出仕

山田真人

日

河村善菴

日

里見太玄

元少乃榮生准席

三浦省恒

村松益雄

右公日抄命 舟口匠及匠達也

庚午

十月廿四

大學東校

大藏省

半



通目法城令之能骨骸を果し通一の中地

庚午

十月廿七日

因秋司

大學寺後

丙午



記

ウエル氏化学書	七拾部
ウエルン氏解剖書	五拾八部
タルトレ氏人身宛理書	五拾七部
ドレクリヨレ氏字書	拾貳部
クエケンボス氏宛理書	五拾六部
クレー氏解剖書	貳拾部
ホウリス氏化学書	貳拾部
レーマン氏原生化学書	拾部
クイレシヤペー氏解剖書	貳拾部
ピースリー氏組織学書	拾部
ヒール氏顕微鏡学書	五部



ヒルシヤウ氏究理學書

五部

スナール氏藥劑書

二部

トーマス氏醫學字書

五部

ヘンレーウツ氏化學字書

貳部

別紙之書籍入用ニ自横濱西洋店ハルトリーニ注文  
ハ多ク致後之書々々金百五十圓而致之其書  
中ニ未だ知ラズ者多ク致後之書々々金百五十圓而致之其書  
中ニ未だ知ラズ者多ク致後之書々々金百五十圓而致之其書

庚午

十月廿九日

大學東校

大藏省

書籍の質と代金千三百圓程渡方ニ係ル所全  
ク取返す事知ラズ者多ク致後之書々々金百五十圓而致之其書  
中ニ未だ知ラズ者多ク致後之書々々金百五十圓而致之其書

庚午

閏十月十日

大藏省

大學東校

庚午



東京大学

过内字少郎道曾以掛念偏之上上野堂後所用掛  
中付名物之勤役中常口差許至屋台以匠石  
延以達之方い片也

唐平

十月廿九日

大学东校

東京府

市中

東京大学



東京大学総合図書館

田口大學藏少之簿  
其用自去月廿日大改出立同廿日着改其所以此  
及以達其也

庚午

同十月言

大學東校

大藏省

山中

東京大学総合図書館











此校の支配教育所常局試呈至猪肴らテール油并  
カス焼取建陽く至二月廿五日迄多し此方唯言  
四ツ時高府常務局より此方採り達多し此方此  
中進片也

十月言

東京府

大学東校

内中



古之願海之正旨也  
此及所達也

年

壬子月三日

大學東校

大藏省

印

細川大學少助教  
横川大學大得業生







右及山等所也

閏十月四日

大学东校

神田坂久間町門前元東戲山物揚場普濟之系道  
旧掛合中入並り雪干今曰来と通雪額之系成  
居片々自東京府より時々来に仍る急修理  
方より係上水司より達多々度再應及由掛合  
所也

二庚午

閏十月四日

大学东校

民部省

小中



鈴木廣三郎  
先般拝啓郎殿  
出仕字作讓受澄章  
其旨名澄章字差出仕係  
四十兩方一斗也  
庚午

閏十月廿

東京府

郎宅裁

大學寺後

山平



東  
大  
印

屍骸所居所居之  
所相与以方以廻  
也

庚午

壬午月七日

大學志校

因猷司

中

東  
大  
印



也  
吉田准中得業生去月四日死去波名改匠及山達匠

庚午

閏十月七日

大学东校

大藏省

以年



人體解剖之要道曰同倫之書也病而後死人刑屍  
 病死とも高き一願文也考其分を時くは迎一  
 多しは保少掛念痛之を減后より其名今日同然  
 及掛念を身書示し外方海に其い並り少省  
 少少は其く瓶及担其を乗更に前案に通同歟  
 日中其方く改改に入る也

庚午

同十月七日

大学东校

刑部省

少



此七日以掛分考し人體解剖之系を省くといふ  
事は鼻首より分れられ後天の源因故にありて  
此をいふことと通ずるや今一應少くも之を  
後天の系及び之を考へ也

閏十月八日

刑部省

大学東校  
小中

元大学大得業生席

小林達右衛門

大学出仕

少助教准席

元皇漢醫道所用職

柳田龍之助

大学出仕

大得業生准席

元十二等出仕

相谷元善

13

13

尾田重忠膳

13

13

清水謹吾

13



日

今村了菴

元十五等崇

大學出仕  
中得常生准席

山田真人

日

河村善菴

日

里見大玄

日

山崎良策

日

足立精齋

右令將命之旨以迄及山達片也

庚午

閏十月八日

大學出仕

大藏省

庚午



東京大学  
総合図書館

大学東校

山門書信並

秋山助五郎

元禄之儀、有尋儀方、其間、唯己、刻出、既片、  
探、四、五、方、く、方、也、

午

閏十月日

東京府

大学東校

東京大学  
総合図書館



昔は武会中並に人體解剖之象刊死を勿論病  
死も宿る願文を今悉く廻しとあるは若く本  
省に掛合編を成りて花系多し次方以廻しとある  
り係多し故に世中入り也

庚午

閏十月九日

大学東校

因飲司

少



東京大学総合図書館

別紙之通致 仰出長身及山形諸君  
中大と典之同を人高教らりて出方と被出中  
入付也

二原年

国十月十日

大学東校

病松使

山中

右別紙之書學制簿ニアリ

別紙之通致 仰出長身及山形諸君  
中大と典之同を人高教らりて出方と被出中  
入付也

東京大学総合図書館



庚午閏十月十日

大學東校

市

近而初四當應引拂多繁こりきしゆ々ハ休也  
以後初五我こりしゆ々ハ休也

外國留學生人撰名前番の廻り、年旅費の地方  
米穀官の達方、其外國のより、其差旅費  
分おかり、年旅費の出しおけ、年と年と間何回、何  
系と何付、此の廻り、其旅費の中へ入る也

閏十月十二日

大藏省

大學東校

西中

石氏子孫

一吐才百及四獄舍在外國爲學生旅費而往來し  
之甘留學之國而去之取波美利安者爲紙人



谷之上在獨乙占池一里之方今既彼  
地之所在也志皆今度獨乙北聯部  
其左原以系知方之改由其中入池也

庚午

閏十月十四日

大學寺校

大藏省

出

當府下居住土部家酖下陰陽師戸籍按實之  
儀從前不立圖之相成居以戸令般更之同所方  
戸籍加入之儀相違其儀に受右陰陽師の四托  
力之昂し者成之儀に別紙之通之段人  
其儀に十書在之全陰陽師大博士家來之陰陽  
道兼職波在儀に在之左之原籍に在之方  
請合河者に其儀に在之知波に在之通之方  
其儀に在之原籍波に在之及在河に在之也

庚午

閏十月

東京府

戸籍調査



大学東校

二公別紙に記し後隔山道所よりなり也

下札  
梶力之序事元漂泊し以て為活計陰陽道ヲ  
行はしむ共高時佐藤家来にお達せし名中出立此取及  
り共也

庚午十月十八日

大學東校

別紙を通及山道所なり也

神田宗所續

下谷新屋番

東校大博士

佐藤舜海拝借地之内

陰陽師

梶力之部

家族四人

右者今般陰陽師賣下名之義市籍ニハ差加名名  
前ヲ以津沙治ハ座有取調多受同人至之右佐  
藤舜海家来ニ執中聞有主人方ハ同有少受  
方来ニ執中聞有主人方ハ同有少受  
如ハ中ハ海高時佐藤家来ニ執中聞有主人方ハ同有少受

五十月

三松之番組



町年寄

上野山内元中堂跡在之方振之彼之何人體之若  
首端多其比夕見廻了之者見之而平出之方之  
以檢分之上江付左振之之節之山達方之彼時  
入也

庚子

閏十月十日

大學東校

東京府

小中

江間權少属見分りて十二時石城一同主會見分  
お偏左振之何人川取中在也

五十月十六日



中府貫属元多村富送所用方々在桑田十八日  
十字書後波波係山達ウミミ也

二張半

同十月十日

大学東校

東京府

山



種痘之儀 二月十四日 陸中夜多雪 且月久 我少助  
教 且出之 在官 乃 且 而 陸中夜多雪 且 且 且 且 也  
庚午

閏十月十七日

大学未校

東京府中

東京府中

東京府中



東京大学

昭安英に致す西菓子也  
うき結成也

庚午

後十月十日

宮内省

大学未校

少



東京大学

道日也廻 中夜夕アフル并イヌ山用満 子居々至  
此返却方々以原山能中入也

二庚午

閏十月十八日

大学志校

宮内省

小中

三言

道日也廻 相成在夕アフル並イヌ古御山用満  
右持返却ソ中 此言山能中入也

印

東京大学



東京大学

亮友村富造

名活字御用掛申甘左衛門為山心得本達中左  
也

庚午

閏十月十日

大學東校

東京府

山

東京大学



東  
大  
学  
蔵  
書

道日及此同今在堀力三弟儀漂泊之江に活計  
ゝ為メ陰陽道行を得共當時佐藤大博士の家  
来に抱負執拗に全原籍に以地こそと語人  
を誰よりいふ密細心得至りて及此石神寺回  
りて及此所迄及少掛合なり也

庚午

閏十月十日

東京府

戸籍調査

大学東校

山平

七紙

東  
大  
学  
蔵  
書



握力三弟等去辰羊年申山鳴殿山内多賀田之祝家  
因うあ成居方内陰陽道波一居其當二月申多賀  
田之祝諸人より以佐藤大博士家来ニお出いりし  
右石神及山等也

庚午

同十月廿日

大學東校

當校雇入之教師ボードイン期限お満来廿日  
当地教足波歸洋方甘志ん九月廿四日消五納  
至左津金旅費之洋限千拜并本月分津給  
多車代共出後廿二日請氣こも出た方消波方  
度此方おん及少掛合方也

庚午

同十月廿日

大學東校

大藏省

山平




上野

吉祥院

一座面向廊下雲隱云

建坪五拾坪程

代金七拾五兩

一勝手向

建坪五拾坪程

代金五拾兩

右列紙繪圖而通直廣之極之長官以備金寶  
 上段存心以爲知者不可急以爲多之以此徒及由  
 掛合屋也

庚午

東京大学総合図書館蔵



閏十月廿日

大学東校

大藏省

以中

下紙

大学東校より別紙にて通事作買之直延掛合書  
以後見分り申し各等直延之類は不相當也  
以能い

壬子月廿二日

菅橋司

任大学中助教

元大学出仕

三宅復一

右字様命書此紙及び通事也

庚子

閏十月廿二日

大学東校

大藏省

以中



東の山達方より佐久間所物場所板海山邊留  
より山達所板海山邊及山達所也

庚午

壬子月廿二日

土木司

大学山校

山

東  
山  
校



東  
大  
一  
冊

渡邊大得業生

右毎日仕入病人診察うね勤事

三浦准中得業生

三浦少得業生

右隔日仕入宿直うね勤事

東  
大  
一  
冊



種痘日

朱甘昔

廿八日

庚午

閏十月廿三日

東校

南校



東京大学

東京府貫属

吉田文輔

大学出仕

少将兼生准席

右令旨持命二付口匠及少達令也

二度

閏十月廿四日

大学出校

大藏省

少将

東京大学



東京大学総合図書館蔵  
吉田文輔  
大学出仕少得業生唯席中付与万為品記  
あり違片也  
二庚午  
閏十月廿四日  
東京府  
市中

吉田文輔

大学出仕少得業生唯席中付与万為品記  
あり違片也

二庚午

閏十月廿四日

大学出仕

東京府

市中

東京大学総合図書館蔵



東京府  
大学東校

當校藥用検査場所入用之有別紙繪圖而示之  
通用地之少く波多き故存を多し陽所是述  
外務省所屬地之方々在る不用之有同省より波  
通地を振出す所は仍差支毛多し以て當校  
より波を中事波振出以候及以掛合也

呈

十月廿四日

大学東校

東京府

山手

東京府



東京大学

任大学中得業生

元大学以得業生准布  
院山隆策

任大学中得業生

元大学等外出在  
榎村貞軒

免本官

元大学以金長心得  
長井貞安

免本官

大澤太学以得業生

方之通在系此院及山達准也

庚午

閏十月口晉

大学東校

大藏省中

東京大学



東京大学

長谷川大学中助教  
氏此返内達可也

庚午

閏十月廿四

大学本校

大蔵省

山中

東京大学



東京大学

新編官修通志十月二日宮中法  
事を東南両校より隔日大西三人と出張至簿  
之儀を両校より月々三人と出張至簿に  
定むる事なり此より通志の成る也

庚午

三十月廿日

大学南校

大学東校

のち

但大学に依る先づ南校より心得なり且南校  
之事も丁白大西出張に依り也

東京大学



東京大学

今廿七日新罷者ハ人ナク古死體ニ依リテ  
コウニナリテ吾々ニ至ルニ成リテ及ボル通達  
アリシ也

閏十月廿七日

因 献司

大學東校

再伸如文死體ノ門前ニ至ルニ至リテ  
ソレニ至リテナリ也

東京大学



東  
大  
學

兵部省遠兵司内出村と傳次々々先達而後  
少角多々孤兵部省下及少餘合々々少付日省々  
りくお障く而々々少少少居々々々少々々々  
支々々中々々々日省々々々々々々及少通達  
也

十  
月  
役

東  
授

東  
大  
學

東京大学

尚司管轄浅草涌患者之系是近尚司之於  
醫師二名中其一人自某之原用方波事其  
先服之役是也又波賦負之役是也而此  
保之云々其云々部之系是也又波事其  
之役是也其別紙寫之通之云々且其用之  
波賦負之役是也其別紙寫之通之云々  
之系是也其別紙寫之通之云々

二名

同十片

同十片

大寺寺校

中

東京大学



從來浅草溜るるを、高野松菴者差送る場所を  
おぼしめし、おぼしめし、おぼしめし、おぼしめし、  
おぼしめし、おぼしめし、おぼしめし、おぼしめし、  
おぼしめし、おぼしめし、おぼしめし、おぼしめし、

おぼしめし、おぼしめし、おぼしめし、おぼしめし、  
おぼしめし、おぼしめし、おぼしめし、おぼしめし、  
おぼしめし、おぼしめし、おぼしめし、おぼしめし、  
おぼしめし、おぼしめし、おぼしめし、おぼしめし、

おぼしめし、おぼしめし、おぼしめし、おぼしめし、  
おぼしめし、おぼしめし、おぼしめし、おぼしめし、  
おぼしめし、おぼしめし、おぼしめし、おぼしめし、  
おぼしめし、おぼしめし、おぼしめし、おぼしめし、

閏十月廿日

大野松菴  
高安雄代

東京大学  
桂川甫真

三蘭醫ボードインの職を家に引致しあつて海軍省  
から石井とてゑん波を改定及つてを会考也

五十月廿八日

外務省

大学お授

四年

三蘭医ボードインの職を二月に任じ雇ひに期満し引致退  
校しを石井とてゑん波を改定及つてを会考也

五十月廿九日

大学お授

東京大学



二  
一

因獄司藥局に出仕せし田村外五人は若菜院陽へ出  
仕た者澤外或人之者月給を系於同司酒方より  
引去月及掛合を云々再在云々云々云々云々云々  
外に官録を後方官を名口司に付達するに及ば  
ず入仕也

三  
三

同十月廿九日

大学本校

刑部省

半

此の如く通るべき文通を後方官を名口司に付達するに及ばず入仕也

東京大学



也  
之  
事  
ハ  
於  
彼  
司  
口  
賄  
リ  
ル  
爲  
是  
示  
少  
建  
多  
ハ  
後  
也

東  
京  
大  
學



